

大峰山山行記録



目的地	大峰山	期 日	平成21年1月25日(日):曇
山人人	笠原正雄・中野茂・森山トシ子・高橋誠一夫妻	特 記	登頂は出来なかったが、充実の山行。

地名	時刻	記 事
与板発	午前8:00	朝7時頃、高橋さんから同行の連絡を戴く。今冬一番の冷え込みで恐々運転。
お福酒造前	8:45	ここで加茂市からの高橋夫妻と合流。
村松橋付近歩き出し	9:15	村松橋を渡り、バス回転場の手前の山道入口の空地を除雪して2台を駐車する。橋に戻り太田川の右岸を進みすぐに、カンジキ、スノーシュー(笠原・中野)を履く。
養鯉池に突当る		道を進むが、雪曲がり木が行く手を塞ぐ。左に降りて、法面を登ってもう一度道に上がる(写真左)。ここで左折して25,000地形図の破線の通りの沢を進むか、尾根に上がるか迷ったが、右折して藪混じりの杉林を進む。なかなか直進出来ない。
送電線鉄塔下	9:55	ここまでも急傾斜の掻き上がりで苦勞をしたが、ここに入るにも大汗をかく。ポケナビを出す、車に地図を置いてきてしまったため、現在地を確認出来ない。後で調べたら、25,000地形図の道から予想以上に南にそれていた。
枝尾根合地	10:40	太田川沿いの尾根と北側ルート尾根の合流点。ここからは1本尾根となる。喬木に赤テープ等のマーキングが残っているが、かなり古いものである。一度杉を見なくなったが、数分後もう一度植林杉のヘリを歩く。
台地で休む	11:05	かよさんからえび煎餅をご馳走になる。ポケナビは三角点まで直線1.1km。
カヤ場の登り	11:20	幾度も細かい崖地が立ちふさがり、トラバースも苦勞する。雪が少なく、カヤ草が露出して滑る。どこを登ればよいか、なかなか判断に苦慮する。(写真中)
ランチ	11:55	一つピークを乗越えて鞍部を通過(写真右)。山頂手前への長い登りの基部に格好の広場があった。立ち止まり皆で協議、即決する。山頂三角点までは直線約600m手前。H436/N372254.1/E1385238.7。少し南の林に下って見たが、沢からの風が来る。最初に立ち止まった所に戻り、スコップで雪テーブルを作る。風も無く、寒さは感じない。鱈白子、下仁田ネギ等、そして三日前に粟ヶ岳で採ったヒラタケシメジをたっぷり加えて寄せ鍋を作る。水割缶2本。帰路運転はトシ子さん。
下山開始	午後1:30	ランチ中に一時日差しを受けたが、この時間になって冷たい微風となる。俺だけ壺足で下って見たが、やはり抜かる。ほどなくスノーシューを履く。
歩行終了	2:35	今度は、25,000地形図の破線の通り進み、沢ルートで下る。登りでは見通せない道が、下りでははっきりと判断出来る。
金倉山への林道	3:00	高橋さんの案内で山古志方面に車で進み、金倉山の入山口を教えて貰う。雪の林道にスノーシューのトレースがあった。それに上がり、数分先の展望の良い所まで行く。日差しを受けた越後三山、そこから連なる巻機への山々が一望出きる。ところが振返ると、西の空は暗雲が覆い、大峰山もガスの中に消えた。いいタイミングで下山出来たと安堵した。帰宅後、みよしので中野と一杯。



3年前の3月に、午後から入山し、時間切れで戻って来たことがある山だ。それ以来ずっと気になっていた。今回リベンジのつもりであり、最大3時間で届くだろうと思っていた。それでも1月の雪、それも小雪は甘くは無かった。スノーシューとカンジキを車につんでいたが、直前でスノーシューとした。藪混じりの雪山はカンジキの方が良かった。加茂から高橋さん夫妻が同行してくださり、楽しい山行であった。